

3. 補助表

参考資料：日本十進分類法（日本図書館協会）

補助表は、「各主題に共通に用いることができる要素（内容的な要素や資料の形態、出版形式など）」や「地理的な区分」、「原著の言語」などを別表にリストしたもの。基本的な分類記号の決定に使用する「主題」を単純化することができ、これに「補助表の分類」を付加することで、ぜんたいとしての分類記号を合成することが可能になります。

補助表には、「一般補助表」（＝NDC全体もしくは複数の類で使用できる）と、「固有補助表」（＝特定の類の一部に対してのみ使用できる）がありますが、本書においては、「形式区分」を除いて、補助表の適用可能な分類には、「*補助表名」を記しましたので、一般補助表と固有補助表を区別する必要はありません。

注意事項： ※この項目はかなり難解ですので、難しい場合は読み飛ばして下さい。

補助表の適用には、いくつかの注意が必要な場合があります。この注意点こそが、分類作業を難しくしている最大の原因です。逆に考えれば、これを克服すれば、分類作業は、それ程困難な作業ではなくなると思います。

注① 第三次区分（要目表）の一部には、既に補助表の内容が含まれている場合があります。この場合は、同一内容を重複して付加してはいけません。

例：「産業史」(602) 末尾の 2 は、「形式区分」の歴史(02)
※~~600~~+02(形式区分:歴史)

例：「日本語の方言」(818) 末尾の 8 は、「言語共通区分」の方言(8)

注② NDC細目表で、4桁目以降に、形式区分（01～07）と重複する番号が細分されている場合は、そのままでは形式区分と区別が付かないので、形式区分の先頭に 0（ゼロ） を重ねて付加します。細分されている分類は、次のとおり。（時代を細分したものと、2国間の関係を示す地理区分の後ろ部分）

210～270、332、362、702、723、762、902 など

例：「中国歴史論文集」(222.004) ※中国の歴史=222

※通常どおり合成すると 222+04→222.04 となり、222.04 は既に細目表に「秦漢時代の歴史」という項目が存在する。（04/論文集を形式区分と解釈できない）その為に、形式区分を、004として合成する。

222 + 004 → 222.004

例：「文学史学会」(902.006) ※文学史=902

※通常どおり合成すると、902+06→902.06 となり、これは細目表に、「近代文学思想史」となっています。（06/学会を形式区分と解釈できない）その為に、形式区分を006として合成します。

902 + 006 → 902.006

例：2国間の関係 ⇒ 後述の**注⑥**で説明します。

注③ 形式区分(01/理論・哲学=学・思想)と(02/歴史的・地域的論述=史・事情)については、細目表に指示がある場合は、0(ゼロ)を省略します。多くの場合、指示通りゼロを削除して分類合成すると、基本分類（第3次区分表の3桁分類／一部第4次区分を含む）の次のような分類記号になります。（以下に全てをリストしたつもりですが、見逃しているものが有るかも知れません。）

注：NDCには記載されていませんが、01/02だけでなく、下位区分の012や028のゼロも削除します。（削除しないと整合性がとれないので）

<合成結果が、～学・～思想 となるもの>

161, 171, 181, 191, 191.1, 311, 321, 331, 334.1, 335.1,
336.741, 337.1, 337.81, 339.1, 341, 361, 371, 376.11, 421,
425.1, 426.1, 427.1, 429.1, 441, 451.1, 461, 471, 481, 533.1,
538.1, 539.21, 548.31, 551, 674.1, 761

例：「宗教学 = 宗教の学問」(161) $16\theta + \theta 1 \rightarrow 161$
「宗教」(主題) 理論(形式区分)

<合成結果が、～史・～事情 となるもの>

162, 161.2, 166.2, 167.2, 172, 182, 192, 198.22, 198.32,
199.2, 312, 314.12, 318.2, 322, 323.12, 332, 334.2, 335.2,
336.742, 337.2, 337.82, 338.2, 339.2, 342, 345.2, 347.2,
349.2, 362, 366.62, 372, 376.12, 377.2, 382, 392, 391.2,
396.2, 397.2, 398.2, 462, 472, 519.2, 622, 632, 642, 548.92,
586.22, 586.32, 586.42, 586.52, 586.62, 586.72, 612, 622,
632, 642, 652, 662, 672, 674.2, 678.2, 682, 683.2, 683.92,
685.2, 686.2, 687.2, 688.2, 689.2, 692, 693.2, 694.2, 699.2,
712, 728.2, 732, 749.2, 752.2, 753.2, 756.2, 762, 768.52, 772,
773.2, 774.2, 778.2, 791.2, 793.2

例：「宗教史 = 宗教の歴史」(162) $16\theta + \theta 2 \rightarrow 162$
「宗教」(主題) 歴史(形式区分)

注④ 形式区分を複数付加する場合は、主題への結合の強い順に付加する（NDCでは、「内形式」(結合が強い)と「外形式」(結合が弱い)という語が使われています。）

例：「生物学の歴史」 → 「学」と「歴史」では、「学」の結合が強い

※「生物学」の歴史であって、「生物の歴史」の学問（理論）ではない

「生物」(主題) 「学・理論」(形式区分) 「歴史」(形式区分)
 $46\theta + \theta 1 + 02 \rightarrow 461.02$
※注2の指示があるので削除

注⑤ 地理区分は、細目表に「*地理区分」と記載されている場合に適用されますが、記載が無い場合で、どうしても地理区分を付加したい場合は「形式区分02：歴史的・地域的論述」を介して（間にはさんで）付加することができます。

例：「アメリカ合衆国の経済」 330(経済)には「*地理区分」は記載されていない為、02：形式区分/地域的論述(事情/ある地域についての話ですよという意味)をはさんで、53(地理区分/アメリカ合衆国)を付加します。

「経済」(主題) 「事情」(形式区分) 「アメリカ合衆国」(地理区分)
 $33\theta + \theta 2 + 53 \rightarrow 332.53$
※注2の指示があるので削除

(間違い) $33\theta + 53 \rightarrow 335.3$ とはならない事に注意

別合成：第三次区分表に「経済事情 *地理区分」(332)があるので、ここから合成します。

$332 + 53 \rightarrow 332.53$

注⑥ 地理区分で、2国間の関係を示す場合は、0（ゼロ）を間にはさむ

例：「日本と南米諸国との貿易」

※「貿易」(678)には、*地理区分が記載されていないので、地理区分を追加するには、「形式区分:02」を介する必要があります。

678 + 02 → 678.02 → 678.2
※③の指示があるので削除 貿易事情

「貿易事情」(主題) + (地理区分:日本) + 南米諸国(地理区分 6)
678.2 + 1 + 0 + 6 → 678.2106

(注②の例) ※形式区分の先頭のゼロを重ねて使用する例外

「日本貿易協会」 ※貿易=678 *地理区分の記載がないので、
地理区分を付加するには、02を
介する必要があります。

678 + 02 + 1(地理区分:日本) + 06(形式区分:協会)
→ 678.2106 となり、「日本と南米諸国との貿易」の分類記
号と同じになります！

これは、2国間の関係の後ろの国(0を介するので、地理区分の番号によ
っては、形式区分の番号と同じになり、区別できなくなるのです。(今回は、
南米「0+6」と協会「06」) これを避ける為に、NDCでは、形式区分の方に
「0」を重ねて「協会=006」として合成するように指示があります。

678 + 02 + 1 + 006 → 678.21006 (日本の貿易協会)
形式区分:協会

◇一般補助表

3-1 形式区分

内容：

資料の「内容的な要素」(理論・歴史的/地理的論述・図鑑など)や資料の「構形成態」
(論文集・会議録・雑誌・紀要など)、「出版形式」(逐次出版・叢書・全集など)による
区分。

適用：

基本的に細目表のすべての分類項目に付加できます。原則として、分類記号に直ちに付
与します。複数の形式区分を適用する場合は、「主題との結合が強い順に付加する」こと
が原則です。NDCの「使用法」のページでも、複数適用の場合の説明は、対象資料によ
ってはかなり流動的に対処するような記載があります。主題の解釈と形式の判断により、
付与される分類記号に相違が出ることは仕方ないのかも知れません。なお、国会図書館で
のNDCの扱いでは、「複数形式区分は採用しない」とか「4桁以上の分類記号(細目)に
は形式区分を付加しない」など、割り切った規定を設けています。学校図書館においても、
分類記号が過度に長くならないように配慮することが必要と考えられます。

また分類記号が、「タイトル」ではなく「本の内容」に対して付与されることから、例
えば、タイトルに「～事典」とあっても、内容を考えると「事典ではない」場合もありま
す。(結構多いかも知れません。)この場合、「形式区分:事典/033」を付加しないのが正
しいのですが、利用者である子供達からは、タイトルにある「事典」として本を探すこと
が考えられます。このような状況を考えると、学校図書館においては、正しい分類記号と
は言えないかも知れませんが、「事典」を付加した分類記号も採用する意味があると考え
られます。

形式区分の区分番号：(一部省略)

- 01 理論、哲学 ※学問の原理・真理・心髄などについての記述に適用します。
- 012 学史、学説史、思想史
- 02 歴史的・地域的論述 ※「～史」や「～事情」に適用されます。
* 地理区分 02に続けて地理区分を付加できます。
- 028 多人数の伝記 ※3人以上の伝記に適用します。列伝二人以下の伝記は、個人伝記(289)または個別の主題の元に分類します。
- 03 参考図書(レファレンスブック) ※逐次刊行される参考書は 03 とします。
特定の資料に付随した参考資料は 088 を付加します。
- 031 書誌、文献目録、索引、抄録集 ※出版案内や書評集などを分類します。
- 032 年表
- 033 辞典、事典、引用語事典、用語集、用語索引 ※音順配列のもの
- 035 名簿、人名録 ※人名のリスト(解説があっても短文)を分類します。
- 036 便覧、ハンドブック、ポケットブック ※用語や事象を、言葉中心で実的に解説したもの。
- 038 諸表、図鑑、地図、物品目録[カタログ] ※図版や写真・表・地図などを中心にして解説を行うもの。
- ※NDL-OPACでは、第4次区分以下に細分された図鑑には、「形式区分:図鑑/038」を付加しませんが、学校図書館では、タイトルに「図鑑」とある本は、可能な限り「形式区分:図鑑」を付加するべきと考えます。
- 04 論文集、評論集、講演集、会議録 ※非体系的・非網羅的なもの
一見、論文集と思えないタイトルでも、内容的に、論文集や評論集と考える場合があります。
- 05 逐次刊行物：新聞、雑誌、紀要 ※逐次刊行される論文集(05)
期限を定めずに、決まったタイトルで、定期的に刊行される出版物に適用します。
- 059 年報、年鑑、年次統計、暦書(1年のこよみ) ※年単位で発行されるもの
- 06 団体：学会、協会、会議 ※団体が運営する施設など(展示館・会館など)
団体の会報や組織に関する記述に適用します。
- 07 研究法、指導法、教育
- 075 調査法、審査法、実験法
- 076 研究調査機関 ※調査機関自身の概要や組織・名簿など
- 077 教育・養成器科 ※教育機関自身の概要や組織・名簿など
- 078 教科書、問題集
- 079 入学/検定/資格試験 の案内や問題集・受験参考書

0を削除する例外が適用される場合が多くあります。
適用された場合、形式区分が、基本分類に含まれてしまう場合もあるので、注意が必要です。

- 08 叢書、全集、選集 ※主題が明確で、体系的・網羅的なものに付加します。
多様な主題や主題が明確でない場合は、080に分類します。
- 088 資料集 ※特定の資料に付随した資料集に付加します。
資料集そのものが単独の出版物の場合は、-03以下を採用します。

3-2 地理区分 (抜粋)

内容：

主題に対して、国や地域を指定する場合に利用する補助区分です。世界各地を、階層的に区分しています。

適用：

形式区分「02：歴史的・地域的論述」を介すれば、基本的に細目表のすべての分類項目に付加できます。また、細目表に「*地理区分」と記載されている分類項目には、原則として、分類記号に直ちに付加します。

なお、「*日本地方区分」と記載がある場合は、地理区分(日本)の先頭の 1 を削除した区分番号を付加します。(NDCには、3桁基本分類に「既に日本を意味する 1 があるので

削除する」と説明がありますが、筆者としては、この説明には納得できませんが。「海洋区分」との併用はできません。

地理区分の区分番号：(抜粋)

1 日本

11 北海道地方

111(道北)、112(道東)、113(十勝)、114(上川)、115(道央)、
116(道西)、117(後志)、118(道南)、119(千島列島)

12 東北地方

121(青森県)、122(岩手県)、123(宮城県)、124(秋田県)、
125(山形県)、126(福島県)

13 関東地方

131(茨城県)、132(栃木県)、133(群馬県)、134(埼玉県)、
135(千葉県)、135(東京都)、136(神奈川県)

14 北陸地方

141(新潟県)、142(富山県)、143(石川県)、144(福井県)

15 中部地方

151(山梨県)、152(長野県)、153(岐阜県)、154(静岡県)、
155(愛知県)、156(三重県)

16 近畿地方

161(滋賀県)、162(京都府)、163(大阪府)、164(兵庫県)、
165(奈良県)、166(和歌山県)

17 中国地方

171 山陰地方

172(鳥取県)、173(島根県)

174 山陽地方

175(岡山県)、176(広島県)、177(山口県)

- 18 四国地方
 181(徳島県)、182(香川県)、183(愛媛県)、184(高知県)
- 19 九州地方
 191(福岡県)、192(佐賀県)、193(長崎県)、194(熊本県)、
 195(大分県)、196(宮崎県)、197(鹿児島県)、199(沖縄県)
- 2 (アジア、東洋)
- 21(朝鮮)
 22(中国)
 224(台湾)、227(モンゴル)、228(ウイグル)、229(チベット)
- 23(東南アジア)、231(ベトナム)、235(カンボジア)、236(ラオス)、237(タイ)、
 238(ミャンマー・ビルマ)、239(マレーシア)、2399(シンガポール)
- 24(インドネシア)
 241(スマトラ)、242(ジャワ)、243(ボルネオ)、2437(ブルネイ)
 244(スラウィシ・セレベス)、246(ティモール)、2462(東ティモール)
 247(イリアンジャヤ)、248(フィリピン)
- 25(インド)、257(パキスタン)、
 258(ヒマラヤ地方)、2587(ネパール)、2588(ブータン)
 259(スリランカ[セイロン])、2597(モルディブ)
- 27(西南アジア・中東)
 271(アフガニスタン)、272(イラン)、273(イラク)、
 274(トルコ)、275(シリア)、276(レバノン)、277(ヨルダン)、
 278(アラビア半島)、2781(サウジアラビア)、2782(クウェート)、
 2783(カタール)、2784(アラブ首長国連邦)、2785(オマーン)、
 2786(イエメン、アデン)、2789(バーレーン)
 279(イスラエル)、2799(パレスチナ)
- 29(アジアロシア)
 291(北アジア、シベリア)、292(極東地方)、293(東シベリア)、
 294(西シベリア)
 296(中央アジア)、2961(カザフスタン)、2962(キルギス・キルギスタン)、
 2963(タジキスタン)、2964(ウズベキスタン)、2965(トルクメニスタン)
 297(コーカサス)、298(北コーカサス)
 299(南コーカサス)、2991(ジョージア[グルジア])、2992(アルメニア)、
 2993(アゼルバイジャン)
- 3 (ヨーロッパ・西洋)
- 33(イギリス)、332(スコットランド)、333(イングランド)、335(ウェールズ)、
 338(北アイルランド)
- 34(ドイツ)
 345(スイス)、346(オーストリア)、347(ハンガリー)、348(チェコ)、
 349(ポーランド)
- 35(フランス)、
 357(モナコ)、358(ベルギー)、359(オランダ)
- 36(スペイン)、369(ポルトガル)、
- 37(イタリア)
 377(サンマリノ)、378(バチカン)、379(マルタ)
- 38(ロシア)
 381(ヨーロッパロシア)、
 385(ベラルーシ)、386(ウクライナ)、387(モルドバ)
 388(バルト3国)、3882(エストニア)、3883(ラトビア)、3884(リトアニア)
 389(北ヨーロッパ)、3892(フィンランド)、3893(スウェーデン)、
 3894(ノルウェー)、3895(デンマーク)、3897(アイスランド)

- 39(バルカン諸国)
 391(ルーマニア)、392(ブルガリア)、
 393(ユーゴスラビア・セルビア/コソボ/モンテネグロ)
 3931(セルビア)、39311(コソボ)、3932(モンテネグロ)
 3933(マケドニア)、3934(ボスニア・ヘルツェゴビナ)
 3935(クロアチア)、3936(スロベニア)
 394(アルバニア)、395(ギリシア)
- 4 (アフリカ)
 41(北アフリカ)
 42(エジプト)、428(スエズ運河)、429(スーダン)、4292(南スーダン)
 43(マグレブ諸国)、431(リビア)、432(チェニジア)、433(アルジェリア)、
 434(モロッコ)、435(西サハラ)、436(カナリア諸島)
 44(西アフリカ)
 4412(ニジェール)、4414(マリ[スーダン])、4415(モーリタニア)、
 4416(セネガル)、4418(カーボベルデ)
 442(上ギニア地方)、4421(ガンビア)、4422(ギニアビサウ)、
 4423(ギニア)、4424(シエラレオネ)
 443(リベリア)、4435(コートジボアール・象牙海岸)
 444(ガーナ[黄金海岸])、4445(トーゴ)、4447(ベナン)

 445(ナイジェリア)、446(カメルーン)、4469(赤道ギアナ)
 447(赤道アフリカ)、4472(チャド)、4473(中央アフリカ)
 4474(コンゴ共和国)、4475(ガボン)
 448(コンゴ民主共和国[ザイール])、449(アンゴラ、カビンダ)
 45(東アフリカ)
 451(エチオピア)、452(ジブチ)、453(ソマリア)、454(ケニア)
 455(ウガンダ)、4555(ルワンダ)、4556(ブルンジ)
 456(タンザニア)、458(モザンビーク)
 48(南アフリカ)
 481(マラウイ)、482(ザンビア)、483(ジンバブエ)、484(ボツワナ)、
 486(ナミビア)、487(南アフリカ共和国)、488(スワジランド)、489(レソト)
 49(インド洋のアフリカ諸島)
 491(マダガスカル)、492(モーリシャス)、493(セイシェル)、494(コモロ)
- 5 (北アメリカ)
 51(カナダ)
 53(アメリカ合衆国)
 5394(アラスカ)、5396(ハワイ→76)

 55(ラテンアメリカ)、56(メキシコ)
 57(中央アメリカ・中米)、571(グアテマラ)、572(エルサルバドル)、
 573(ホンジュラス)、574(ベリーズ)、575(ニカラグア)、576(コスタリカ)、
 578(パナマ・運河地帯)

 59(西インド諸島)、591(キューバ)、592(ジャマイカ)、593(ハイチ)
 594(ドミニカ共和国)、596(プエルトリコ)、5963(バハマ)
 598(グレナダ)、599(トリニダード・トバゴ)
- 6 (南アメリカ)
 61(北部諸国)、612(仏領ギアナ)、6122(スリナム)、6123(ガイアナ)
 613(ベネズエラ)、614(コロンビア)、615(エクアドル)
 62(ブラジル)、63(パラグアイ)、64(ウルグアイ)、
 65(アルゼンチン)、659(フォークランド諸島)
 66(チリ)、67(ボリビア)、68(ペルー)

- 7 (オセアニア・両極地方)
 71(オーストラリア)、72(ニュージーランド)
 73(メラネシア)、732(ソロモン諸島)、733(バヌアツ)、734(フィジー)、
 735(ニューカレドニア)、736(パプアニューギニア)
 74(ミクロネシア)、741(北マリアナ諸島)、742(グアム)、743(ミクロネシア連邦)
 744(パラオ)、745(マーシャル諸島)、746(ナウル)、747(キリバス)
 75(ポリネシア)、752(ツバル)、753(サモア[西サモア])、754(トンガ)
 755(クック諸島)、759(イースター島)
 76(ハワイ)、769(ミッドウェー諸島)
 77(両極地方)、78(北極・北極地方、グリーンランド)
 79(南極・南極地方)

3-3 海洋区分 (抜粋)

内容：

海洋区分は、細目表の「299(海洋)」の「.」以下の細分を独立させたものです。

主題に対して、海洋を指定する場合に利用する補助区分です。世界の海洋を、階層的に区分しています。

適用：

細目表に「*海洋区分」と記載がある場合に付加できます。原則として、分類記号に直ちに付加します。地理区分との併用はできません。

NDCの細目表で、「*海洋区分」と記載されているのは、次の3カ所だけです。

- 451.24(海洋気象・海洋気象誌)
- 452.2(海洋誌)
- 557.78(水路図誌・海図・水路報告)

海洋区分の区分番号：(抜粋)

- 1 (太平洋)
 - 2 (北太平洋)、21(ベーリング海)、22(オホーツク海)、23(日本海)
24(黄海)、25(東シナ海)、26(南シナ海)、28(カリフォルニア湾)
 - 3 (南太平洋)、31(スル海)、32(セレベル海)、33(ジャワ海)、34(バンダ海)、
35(アラフラ海)、36()、37(タスマン海)
- 4 (インド洋)、41(ベンガル湾)、42(アラビア海)、45(ペルシア湾)、46(紅海)
- 5 (大西洋)、51(北大西洋)、52(北海)、53(バルト海)、55(ハドソン湾)、
56(メキシコ湾・カリブ海)、57(南大西洋・ギニア湾)
- 6 (地中海)、61(リグリア海)、62(チレニア)、63(イオニア)、64(アドリア)、
65(エーゲ)、67(黒海)68(カスピ海)、69(アラル海)
- 7 (北極海[北氷洋]) ※グリーンランド海、バレンツ海、白海、カラ海、バフィン湾
- 8 (南極海[南氷洋])

3-4 言語区分 (抜粋)

内容：

主題に対して、原著の言語を指定する場合に利用する補助区分です。世界の言語を、階層的に区分しています。

適用：

8類・9類および、細目表に「*原著の言語による言語区分」と記載がある 030、040、050、080 などに付加できます。「*原著の言語による言語区分」と記載がある場合は、原則として、分類記号に直接付加します。

言語区分の区分番号：(抜粋)

- 1 (日本語)
- 2 (中国語)
 - (29) その他の東洋の諸言語
 - 291(朝鮮語[韓国語])、292(アイヌ語)
 - 2936(カム・タイ諸語：タイ語[[シヤム語])
 - 2937(モン・クメール諸語：ベトナム語)
 - 294(オーストロネシア諸語[マライ・ポリネシア諸語])
 - 2942(ムラユ語[マレー語、マライ語]、インドネシア語)
 - 2944(フィリピン語[タガログ語])
 - 297(セム・ハム諸語[アフロ・アジア諸語])
 - 2973(ヘブライ語)
 - 2976(アラビア語)
 - 298(インド諸語)
 - 2983(ヒンディー語)、2985(パンジャブ語、アッサム語、ベンガル語)
 - 299(イラン諸語)
 - 2993(ペルシア語)
- 3 (英語)
- 4 (ドイツ語)
 - 49 (その他のゲルマン諸語)
 - 493(オランダ語)
 - 494(北欧語)、495(アイスランド語)、496(ノルウェー語)、497(デンマーク語)、498(スウェーデン語)
- 5 (フランス語)
 - 59 (プロバンス語)、599(カタロニア語)
- 6 (スペイン語)
 - 69 (ポルトガル語)、699(ガリシア語)
- 7 (イタリア語)、79 (その他のロマンス諸語)
- 8 (ロシア語)
 - 89 (その他のスラブ諸語)
 - 891(ブルガリア語・マケドニア語)、892(セルビア語・クロアチア語・ボスニア語・モンテネグロ語)、893(スロベニア語)、894(ウクライナ語・ベラルーシ語)、895(チェコ語・ボヘミア語)、896(スロバキア語)、898(ポーランド語)、899(バルト諸語)
- 9 (その他の諸言語)
 - 91 (ギリシア語)
 - 92 (ラテン語)
 - 93 (その他のヨーロッパの諸言語)
 - 931(ケルト諸語)、
 - 932(アイルランド語・スコットランド語)、933(ウェールズ語)、934(アルバニア語)
 - 936(ウラル諸語)、9361(フィンランド語)、9362(エストニア語)

- 94 (アフリカの諸言語)
- 95 (アメリカの諸言語)、951(エスキモー語[イヌイト語])
- 97 (オーストラリアの諸言語)
- 99 (国際語 (人工語))
 - 991 (エスペラント)、
 - 993(イード、ボラビューク、オクツイデンタル、ノビアル)

◇固有補助表 (抜粋)

3-5 言語共通区分

内容 :

言語学の領域を細分化したものを指定する場合に利用する補助区分です。

適用 :

8類に付加できます。「*言語共通区分」の記載はありません。

言語共通区分の区分番号 :

- 1 音声、音韻、文字
- 2 語源、意味 (語義)
 - ※語義 = 語そのものが持つ意味 (どのように使われても、意味は変わらない。)
 - ※意味 = 言葉の意味 (語の使用のされかたにより、言葉の意味が変わることがある。)
- 3 辞典
- 4 語彙
 - ※語彙 = ある特定の範囲において使われる「単語の集合」
- 5 文法、語法
- 6 文章、文体、作文
- 7 読本、解釈、(会話) ※会話は 78 を使用
 - 78 会話
- 8 方言、訛語
 - ※訛語 = 標準語と音韻上の違いがある言葉。なまった言葉。

3-6 文学共通区分

内容 :

文学のジャンルを細分化したものを指定する場合に利用する補助区分です。

適用 :

9類に付加できます。「*文学共通区分」の記載はありません。

◇日本文学の時代による細分

参考：日本文学の文学共通区分適用後の細目表でも、時代による細分が行われています。
(日本文学の文学共通区分適用後の細目に付加)

文学作品に適用される時代細分：

- 2 古代初期[上代] (奈良時代まで)
- 3 古代後半[中古] (平安時代)
- 4 中世 (鎌倉・室町時代)
- 5 近世 (江戸時代)
- 6 近代 (明治以降) ※NDC10版では、以下の細分が記載されています。
 - 61 明治時代
 - 62 大正時代
 - 63 昭和時代・戦前
 - 64 昭和時代・戦後
 - 65 平成時代
 - (66 令和時代 ?) NDC10版発行後に元号が変わったので未設定

固有補助表には、上記の他に、次のような区分表がありますが、一般的な学校図書館では、これらを適用する場合は少ないと考えられます。

- ・神道各教派の共通細区分表
- ・仏教各宗派の共通細区分表
- ・キリスト教各教派の共通細区分表
- ・各国・各地域の地理、地誌、紀行における共通細区分表
- ・各種の技術・工学における経済的、経営的観点の細区分表
- ・様式別の建築における図集 (087 建築図集)
- ・写真・印刷を除く各美術の図集に関する共通細区分表 (087 美術図集)